

「安全」「環境」を積極展開

黒姫「ナスバネット」いち早く導入

建設現場で排出されるがれきなどの運搬を、全国に先駆けて導入した。同社メーンに手がける黒姫（渡辺明彦社長、東京都足立区）は「安全」と「環境」をテーマに、さまざまな取り組みを展開している。

六月には自動車事故対策機構（NAVSA）が提供する運転適性診断サービス「ナスバ



ドライバーに指導する大熊氏（右）

ネット」を、全国の先導の機会が以前よりも増えた」とも話す。まだ導入して三か月に満たないことから、「具体的な数値として効果が見えてくるのはこれから」としながらも、「ドライバーからの評判は上々」だという。「安全」への意識が高い風土を作り上げたい」という導入目的はクリアしているようだ。

渡辺社長によると、同社は、デジタコやドラレコの導入も早い段階から進めてきたという。しかし、「無事故は日々の積み重ねによるもの」とし、ナスバネットの導入は、「さまざまな対策に加えて、『さらに一歩先へ

渡辺明彦社長



踏み出す」という意味があった」と話す。また、「安全」とともに重視しているのが「環境への貢献」だ。一例を挙げると、砕石処理業務にカーボンオフセットを導入した。このプロジェクトを進めた加藤淳氏は、「エ

コドライプの推進なご、CO2排出量を減らすための努力は最大限に行ってきた。それでも減らせない部分をカーボンオフセットの活用により相殺する」と仕組みを説明する。導入後の周囲の反応は、「顧客である建設事業者や同業他社は、大きな衝撃を受けていたようだ」と話す。

価格の負担で「広がる意識」

オフセットにかかる費用は、ダンパー一台あたり九十六円を価格として顧客に転嫁。その狙いを、加藤氏は「価格を負担してもらうことで、お客さまにも環

境意識を持ってもらう」と説明する。渡辺社長は、「エや偽装などをしなは当然のこと。企業としての原点、根本的な責任を果たすこと」ラスして、社会責

労働環境改善にさまざまな工夫

黒姫は、従業員の「働きやすさ」の確保にも力を入れている。同社の分田貴幸氏によると、「疲労が溜まると事故につながる。これを回避するために、さまざまな工夫を凝らしている」という。

具体的には、「花を飾る」「マッサージチェアの導入」などリラクゼーションできる環境づくりのほか、処理工場では「効率の良い作業動線の確保」といった業務の見直しも積極的に進めている。

その結果、同社の本社事務所は東京労働局から「快適職場推進計画認定」を受けている。九月には処理工場も認定を受けた。「認定を受けるには、まず計画を立てる必要がある。そのために工場のスタッフに『何がキツイか』などのアンケートを取った」。同氏は、環境整備そのものはもとより、「従業員に『意見を聞く』姿勢」こそが大事」とも話す。

大会優勝
滋氏
中島康

（村上千

マテハン機器を利用する目的は物流業務の作業効率化を推進することにある。出入庫、格納、ピッキングなどの場合、庫内の諸作業の自動化、省力化、コスト削減などを推進するのである。

一連の荷役作業を機械化することで、人件費の削減や作業スペースの節約、保管効率の向上などが可能となるわけだ。

たとえば、ピッキング作業ではデジタルピッキングシステムの導入で、労働集約的な作業の大幅な省力化が

ハン機器の活用

の自動車庫や流動ラックが威力を発揮する。出荷量が少ないものの、重要な商品などの保管には保管効率の高い回転式ラックの導入が物流コストの低減に役立つだろう。フォークリフトの稼働台数を調整することで、デジタル物流コストが削減できるケースもある。フォークリフトの導入がプラスに働くかを見極めるには、取り扱う物品の特徴や出荷量などを念に分析する必要がある。頻繁に出荷される重

コックピット
New Victor
日本輸入販売正規代理店
ニュービクター
www.cool-trucks18.com
12711771
newvictor.com

百三十年の歴史を持つ BPPAの
ち、世界第五位のコンテナ

釜山新港へ